実刑6年 ざわめく法廷 イタリア地震判決 世界の学者、反発 全宣言の伝え方だったので 限り、問題となったのは地 藤照之会長は「報道をみる はない。日本地震学会の加 はないか。要請があれば学 震予知の失敗ではなく、安

日本の学者もひとごとで

の実刑だ。反発ととまどい え、求刑を超える禁錮6年 裁判官が、早口に判決を に情報が伝えられ、どんな から行政、市民にどのよう 結果を招いたのか。 ラクイラ地震直前の会議

> 論し、判決に対する考え方 会としてオープンな場で議

地震をめぐって科学者が裁

イタリア中部ラクイラの

かれた。被告は学者や政府 の担当者ら7人。詳細はま

が広がった。

能性を予測しながら、行政

狭い法廷は、ざわめいた。 市民や報道陣が詰めかけた

の予兆とする根拠はない」

つつ、群発地震を「大地震

「地域での大地震の可

が、ラクイラ地裁の判決 だ明らかにされていない

読み進める。

6年?

6年! 7人とも!」。

いとは断定できない」とし で、科学者は「大地震がな

科学では、その時点の地震 張してきた東京大のロバー ト・ゲラー教授は「現在の をまとめたい」と話した。 地震予知はできないと主

する。それでも、 は落ち度があった」と指摘 厳しすぎる」とみる。 判決の悪影響を心配する

くないと注意しなかったの

いつ大地震がきてもおかし

とも断言できない。だが、

活動がとくに危険とも安全

は、朝日新聞に対して「自 ブルックス・ハンソン氏 ンス副編集長で地質学者の 声もある。米科学誌サイエ は過大に評価して伝えるべ あるいは、もう関わるべき きだというメッセージか、

とする検察側の主張を踏ま 側に正確に伝えなかった 行が、政府の つきまとう問題だ。科学者 問われたのは、地震国に しい」と話した。 を、この裁判から学んでほ もが自らの行動に責任を負 のビットリーニ会長は「誰 た国立地球物理学火山学研 ていい」と発言した。 防災局は「安心して家にい わねばならないということ と結んだ。その前後、政府 学者らを告発した遺族会 方で、有罪判決を受け

街の再建は道半ばだ=22日、石田博士撮影大地震から3年半たったラクイラの中心部。

なくなる。日本のような地

や水を浴びせる」と話し

「この判決は、リスク

郎ーワシントン、杉本崇)

(石田博士=ラクイラ、行方史

震大国なら、5分おきだ」

者は『逃げろ』としか言え

八は語気を強めた。

るため科学者と公的部門が

然災害の被害を最小限にす

ではないという最悪のメッ

セージとなって科学者に伝

共同で行ってきた作業に冷

わるだろう」

究所のボスキ前所長の弁護

無断複製転載を禁じます。